

**<泣く男> <泣かない男>の
「北の零年」**

**「女性学」「男性学」で
日本映画を読む。**

映画を見て、女たち、男たちの生き方を、文学しよう。

藤瀬恭子

諏訪東京理科大学
共通教育センター

映画を教材に使うこと

- 1 画面は雄弁。短い時間でテキストを共有。
- 2 エンタメを活用:「純文学」を読むだけが、「ものを考える」ことではない。
- 3 「活字離れ」から「活字大好き」への促し。
- 4 著作権法の縛り→教育目的に対し緩和を。

家族と学校

「物語の力I」—映画と文学

- ・ そこに潜む階級性、支配と被支配の関係性を分析。
——間テキスト性(Intertextuality)の立場から。
- ・ 孤児の立場から家族について考える:
親のいない子どもたち:(寄宿)学校から社会へ
「ハリー・ポッター」「オリヴァー・ツイスト」「ジェーン・エア」「この道は母に続く」「嵐が丘」「長距離ランナーの孤独」「道草」(夏目漱石)「キッチン」(吉本ばなな)「オイディプス王」

民族、国家、植民地、ジェンダー

「物語の力II」—映画と文学

共同体の逸脱者たちが共同体を救う:

- ・ 「駅馬車」「ソルジャー・ブルー」「ダンス・ウィズ・ウルヴス」「チャイナ・シンドローム」「北の零年」「もののけ姫」「マタイによる福音書」「テンペスト」
- ・ 「オセロウ」、企業犯罪と告発。
- ・ 世界人権宣言、日本国憲法。

男女共同参画の推進へ

- ・ 地域社会にて、エンターテインメントを活用。

親しみあるテキスト、即座の共有。
雄弁な画面、無限の解説可能性。

「北の零年」「たどかれ清兵衛」「スーパーの女」「渡る世間は鬼ばかり」「あいふれた奇跡」(山田太一)「篤姫」

大学は、男女共同参画の、もっとも遅れた組織。

男性たちのホンネが聞こえる

- ・ **女は、女らしくなくては！**
- ・ やっぱ、専業主婦じゃなきゃ。
- ・ 母親が外で働いたら、子ども、どうするの？
- ・ 女の部長いなくっても、困らんよ。
- ・ では、＜男らしさ＞とは何か？

「女性学」と「男性学」

- ・ 男性学：男性であるとはどんなこと？
- ・ ＜男らしさ＞の三つの指向性—優越、所有、権力
- ・ 勝負に勝ちたい。
- ・ 自分の所有として、コントロールしたい。
- ・ 自分の意志を他人に押し付けたい。
- ・ (伊藤公雄「男らしさという神話」NHK人間講座、
「男性学入門」作品社他)
- ・ **＜男らしさ＞の強制が男を不幸に。**

＜男らしさ＞って、 男にとって損じゃないかな？

- ・ 「北の零年」(吉永小百合、渡辺謙主演、行定勲監督大映映画、2005年)

「北の零年」は、「男らしさ」「女らしさ」の
二項対立を無化するテキスト

＜泣かない男＞と
＜泣く男＞の差が鮮明に！

二つの世界からなる『北の零年』

幕藩体制に敗れ、明治政府に心ならずも組み込まれる**男たち**。

逆に前近代の矛盾を見抜き、西欧文明と未開の知（ローカル・ノレッジ）を合わせて近代を切り開く**女たち**。
では映画を走り見しよう・・・

大政奉還、明治維新、廃藩置県

- 1867年 大政奉還
- 1868年 明治維新
- 1870年 庚午事変（**稲田衆、北海道へ移住**）
- 1871年 廃藩置県（**関の裏切り、稲田衆絶望**）
- 1875年 札幌農学校設立（**平太進学希望**）
- 1877年 西南の役
（**志乃に対する馬の供出要請**）

41分版の流れ：淡路から北海道へ

- 発端：淡路の夢、浄瑠璃を見る、稲田藩家臣
- タイトル：『北の零年』 船旅
- 小松原英之ら、北海道にて殿の屋敷を建築。
- 移住第2団、志乃らの一行到着。
- 原野の開墾：家老・堀部賀兵衛の激。

小松原志乃が耕作、アイヌの人々

- 志乃、反対を押し切り、伝統的階級とジェンダー役割破壊。
- 農民、川久保栄太、耕作指導。
- アイヌの人々登場：
- 栄太の息子、平太、ローカル・ノレッジ
- アイヌの二人が、多恵を救出。その後の援助。

悲しみの知らせ、薬売り倉蔵

- ・ 淡路よりの書状:「第三団、紀州沖にて難破」
- ・ 読み上げる家老堀部賀兵衛
- ・ 英之、殿の言葉をねつ造。
- ・ 冬の到来:馬宮雄之助、結核で死亡。

「殿が来た」、しかし廃藩置県

- ・ 「殿が来たぞう」
- ・ 殿「時代の波には逆らえなかった」。
- ・ 農民の絶望:「ええじゃないか」で踊り狂う。
- ・ 英明の絶望:「もう、主君などいらぬ」髭を切る。
英明、涙を流すことはない。＜泣かない男＞
- ・ 英明、札幌で米の種買付に出発。

売薬商・倉蔵 VS アシリカ

- ・ 売薬商持田倉蔵は、積年の恨みを晴らし、稲田衆をだまし、支配。
- ・ 志乃を襲う。
アシリカ、倉蔵の攻撃から志乃を救う。
とめどなく泣くアシリカ ＜泣く男＞
- ・ 倉蔵、馬宮伝蔵の妻を奪い子どもをつくる。
- ・ 志乃に対する批判。娘と出奔。雪中の救出。

5年後、牧畜で稲田衆を救う志乃

- ・ 馬に乗る志乃。
- ・ 雪中の志乃を救ったエドウィン・ダン農業指導。
- ・ 稲田衆の農民、川久保栄太の馬による耕作。
- ・ アシリカの、必要を見計らった協力と支援。

志乃、開拓使支庁から呼出し

- ・ 警官が、指名手配書。反新政府のゲリラの捜索。
五稜郭残党、アシリカ？
- ・ 支庁・静内分所。稲田藩士ら背広で仕事。
戸長、倉蔵、馬の供出要請。
- ・ 馬宮伝蔵、馬の世話。妻加代は倉蔵の妻に。
志乃との再会。
- ・ (イナゴの襲来。作物全滅。栄太火傷、絶望、痴呆状
態。倉蔵も絶望)

エライ役人が東京から馬の調達に。

- ・ 小松原英明、宮原と改名し、明治政府の役人に。
- ・ 英明、倉蔵の扶持米かすめ取りを批難。
馬宮の妻だった加代、英之に対抗。
- ・ 英明、志乃の家を訪問。娘多恵、父を批難。志
乃、昔の着物で迎える。
- ・ 札幌の新家庭の写真を、英明、志乃に。
- ・ 志乃「私の手はごつごつして女の手ではない」

強制執行の朝、百姓一揆が。

- ・ 英明の到来に対し、役場の職員だった稲田藩
士、農民ら、百姓一揆もどきで鋤や鍬を手に、
対抗。
堀部賀兵衛、馬宮伝蔵、元妻加代ら大勢。
- ・ 堀部賀兵衛に銃が向けられた時、馬が志乃
の厩舎から逃亡。

アシリカこと、元会津藩士高津政之

- ・ アシリカが刀を帯びて登場。
- ・ よろけた兵士、銃を誤射。志乃に当たる。
- ・ 駆け寄るアシリカと見つめ合う志乃。
- ・ 英明、茫然。退却。
- ・ 捕縛されるアシリカの場面。「ソルジャー・ブルー」
- ・ 志乃、再び零からの出発。
- ・ 後に馬が戻る。 **映像はこれで終わり。**

コントラスト: 英明とアシリカ

- ・泣かなかった男:
 - ・志乃と娘の家庭を放棄。
 - ・札幌で新家庭。
 - ・稲田衆と「我らが国」の夢を裏切る。
 - ・「しょせん、武士」支配するしか能かない男性。
- ・泣いた男:
 - ・妻子を殺され、「国」の追及の手を逃れ、アイヌに身をやつす。
 - ・志乃と多恵の家庭をかげながら支援。
 - ・ローカル・ノレッジを学び生き物を育てる知恵に優れた男性。

アシリカと倉蔵: 志乃に対して

- ・倉蔵:
 - 1 英明を待ちわび、困窮の中の志乃に、着物を贈る。
 - 2 武士階級の没落につけ込み、暴力的に志乃を襲う。
 - 3 階級上昇の意欲。
- ・アシリカ:
 - 1 アイヌに身をやつし、志乃を遠くから見守る。
 - 2 相手の必要を感じとり、協力、支援する。
 - 3 押しつけることはない。
 - 4 すでに階級下降し、「国」を棄てていた。

志乃と英明、どちらが、 ＜男らしい＞か。

- ・志乃は稲田衆に対する夫の約束を守り、＜我らが国＞を作るために努力。
- ・＜志操堅固＞
- ・農業近代化のため、新しい技術をもつ人々と交流。同時にローカル・ノレッジに学んだ。
- ・＜先進的＞
- ・自分たちの暮らしを守るため、政府の要請を断固、拒絶した。＜勇氣＞

＜男らしさ＞なんて言われても！

- ・英明はださい。
- ・だけど、アシリカはかっこよすぎて、自分とは関係ないもん。
- ・アシリカにも英明にもなれない、＜草食系男子＞。
- ・彼らはどのように生きたいのか？
- ・「男性学」の今後の展開、乞うご期待！